

令和6年度
事業報告書

目 次

【組織の充実強化、法人の健全な運営への取組み】

- 1 組織経営の充実強化
- 2 人事労務管理・個人情報管理・リスクマネジメント対策
- 3 職員の資質向上と確保
- 4 基金・各種積立金と自主財源の確保
- 5 各種関係機関との連携、各種会議への出席
- 6 災害に対する取り組み活動

【気軽に相談できる地域づくり】

- 7 身近で気軽に相談できる相談体制の充実
- 8 制度や分野を横断した総合的に対応できる体制の整備
- 9 多世代に対応した情報提供の充実
- 10 専門職や専門機関がつながる体制の充実
- 11 アウトリーチ活動や支援のネットワークの活用による、複雑化・複合化した課題への対応
- 12 分野ごとに基幹的な役割を担える体制の整備による、関係機関との連携強化
- 13 地域に寄り添いながら関われる体制の整備

【気軽に集える地域づくり】

- 14 地域のたまり場やつどえる場所の周知
- 15 幅広い世代の町民が交流できる、つどいやすい環境の提供
- 16 自分に合った場所や気の合う仲間がつどえる居場所づくり
- 17 趣味活動や運動教室など、同じ目的を持った人同士が活動できる機会の確保
- 18 誰もが生きがい活動や交流活動に気軽に参加できる場づくり
- 19 SNSや広報誌等を活用した活動の周知、及びイベントや各種講座等、それぞれに合った活躍の場の促進
- 20 災害時にも対応可能な見守り体制づくりの促進
- 21 地域ニーズや個別ニーズに合わせて活動が行えるための支援体制の整備
- 22 多世代による活動の担い手の育成
- 23 認知症や障がいなど様々な課題に対する理解促進のための住民啓発等

【在宅で生活する方への福祉サービスの提供への取組み】

- 24 居宅介護支援事業(御浜町ケアサポートセンター)
- 25 訪問介護事業(御浜町ヘルパーステーション)
- 26 通所介護事業(御浜町デイサービスセンター)
- 27 訪問入浴事業(御浜町訪問入浴サービス)
- 28 特定相談支援事業・障害児相談支援事業(御浜町指定障害者相談支援事業所)
- 29 障がい者への訪問サービス事業(御浜町ヘルパーステーション)
- 30 福祉有償運送サービス事業

【その他の取組み】

- 31 福祉健康センター指定管理事業

事業名	人事労務管理・個人情報管理・リスクマネジメント対策
財源元	☐ 委託 ☐ 補助 ☒ 自主財源 ()
目的	職員の人事労務管理(労働環境・健康等)の充実、個人情報の管理の徹底、各種リスクマネジメントへの対応を行うことで、社協の健全な経営を図っていく。
事業内容	1. 人事労務管理関係 ①社会福祉法人役員及び幹部職員研修会へ参加 ②雇用管理や労務管理に関する講習会へ参加 ③働き方改革への対応 ほか 2. 個人情報管理関係 ①情報保護マニュアルの遵守 ②個人名簿等のデータベースを集中化し、クラウドサーバーを活用して管理 ③ICTツールの導入 ④個人情報に関する考え方(プライバシーポリシー)の規程をHP上で公表 ⑤マイナンバーをクラウドサーバー(専用ソフト)で管理 ほか 3. 健康管理関係 ①全職員対象とした健康診断とメンタルヘルスチェックを実施 ②労働衛生法に基づき産業医を委嘱 ③衛生委員会の開催(毎月1回) ④全職員を対象にインフルエンザ予防接種の実施 ほか 4. リスクマネジメント関係 ①町福祉健康センターで職員と来場者を対象とした避難訓練を実施(年2回) ②感染症拡大予防等に関する対策 ③福祉サービス向上委員会でリスクマネジメントとヒヤリハットを協議(毎月1回) ④第三者委員を設置(2名) ⑤各係ごとに苦情解決担当者、苦情解決責任者を設置 ⑥ノーリフトケア(腰痛予防)に関する研修会に参加 ほか
総評	人事や情報管理、健康・リスク対策など、組織運営に関わるさまざまな課題に対して、改善に向けた取り組みを重ねてきた。引き続き、外部の知見も活かしながら、より働きやすい環境づくりを目指していく。
課題	労務や人事に関する制度改正や労働に対する考え方が変化していく中で、制度と実状に応じた規程変更や組織ルールをどのようにするかが難しくなっている。
その他(所感等)	日々の業務の中で求められる対応が多様化・複雑化する中、職員一人ひとりが意識を高く持ち、組織全体で協力しながら取り組んでいく姿勢がますます重要になっていると感じる。今後も、時代の変化に応じた柔軟な対応を心がけていきたい。
改善への取り組み・方向性	労務や人事に関する研修等に積極的に職員を参加させるとともに、専門的な知見を取り入れるため、外部の税理士にも相談できる体制を整えた。今後も必要に応じて外部専門家の活用を進めながら、組織運営の質の向上を図っていく。
記入者	野地本

事業名	職員の資質向上と確保
財源元	☐ 委託 ☐ 補助 ☒ 自主財源（ ）
目的	社会福祉協議会の基本理念と職員の行動指針にそえる人材の育成と確保を目的として、社協職員として自覚と専門性を習得させる。また、業務に応じた職員の確保を行う。
事業内容	三重県・県社協・紀南地域等で開催する各種研修会等に積極的に参加、また部内会議・研修等により豊かな人間性、倫理観、福祉に携わる社協職員としての質の向上を図る。また、専門知識を高めるための資格取得に対して、取得時の報奨金や取得に関する研修会への派遣や費用負担を行う。 1. 社協の職員行動指針の徹底を図る。（朝礼時に唱和） ①福祉専門職としての誇りと自覚を持ち、知識と技術に裏付けられた質の高いサービスを提供する。 ②常に住民や関係機関との協働を意識した行動をするとともに、地域においても自ら率先して福祉社会の発展に努める。 ③お客様の尊厳を保持するとともに、相談援助に際しては高い倫理意識を持って行動する。 ④常に地域福祉の充実という観点で福祉ニーズを意識し、柔軟かつ創造性に富んだサービスの開拓に努める。 ⑤職員相互が尊重し合い協調と連携のとれた業務を遂行するため、組織の一員として規律を遵守した行動をとる。 2. 各種研修会により質の向上を図る。 ①介護サービス及び障害福祉サービス事業所集団指導へ参加（WEB） ②採用時研修の実施 ③生涯研修会への参加 ④三重県及び紀南介護保険広域連合主催各種研修会へ参加 ⑤介護の技術や知識向上を目的とした研修会へ参加 ⑥法人や地域福祉サービスの知識向上を目的とした研修会への参加 ⑦社協内の定期研修会や伝達研修会等の実施 ⑧その他各種連絡会議、ネットワーク会議へ参加 ほか
総評	外部研修については、WEBから集合に戻りつつあり、他社協や事業者との情報共有にもなった。部内研修については、引続き研修動画が見れるサイトの契約を行い、研修の準備の簡略化と質を上げることができた。 係長を対象とした研修会も実施している。
課題	職員確保について、職種や身分に限らず、すべてにおいて募集をかけてもなかなか反応がない。今後の職員確保の見通しと収入を勘案し、サービスの内容や継続を検討していく必要がある。
その他（所感等）	人材育成について、研修を通じて福祉に関する専門性は高まっているものと感じるが、マネージャーとしての育成により力を入れていく必要がある。
改善への取り組み・方向性	職員教育を計画的に実施できるよう、研修体系づくりを行う。また、専門性に加え、マネジメントを意識した研修への参加を促す。
記入者	喜田

事業名	各種関係機関との連携、各種会議への出席
財源元	☐ 委託 ☐ 補助 ☒ 自主財源 ()
目的	社協の役割として、幅広い関係機関との連携を図り、協働による事業推進は必要不可欠である。各種連絡会議・研修会や専門職との協働事業を通じ、経営に必要な情報・ノウハウを得て効率的な運営と幅広い事業展開を目指す。
事業内容	1. 紀南地域における各種会議等 ①熊野市・紀宝町・御浜町社会福祉協議会連絡会議への参加 2. 三重県社会福祉協議会等主催による会議等 ①三重県各市町社協事務局長会議に参加 ②三重県地域福祉活動推進協議会に参加 ③三重県共同募金会に評議員として参加 ほか 3. 関係機関との会議等 ①御浜町民生委員児童委員協議会総会に出席 ②紀南地域生活支援体制整備事業協議体に参加 ③地域包括ケア会議に参加 ④紀南高齢者権利擁護支援体制連絡会に参加 ⑤紀南自立支援協議会に参加 ⑥専門職の協働が必要な各種相談等における会議の開催 ⑦生活協同組合コープみえとの情報交換会 ほか
総評	コロナにおいてWEBを余儀なくされた会議も、目的や内容によって集合とWEBとを使い分けて実施するようになった。
課題	係により課題や制度改正などの対応について相談できる同職種の事業があるかどうかには差がある。
その他 (所感等)	昨年度、紀宝町と意見交換等を目的に合同の視察研修を実施したことで、大まかであるがそれぞれの取組を知ることができ、取り組む事業について具体的に相談し合えるようになった。
改善への取組み・方向性	研修等を通じて他事業所の取組についても学んでいく。
記入者	喜田

事業名	災害に対する取組み活動
財源元	☐ 委託 ☒ 補助 ☒ 自主財源 ()
目的	東海・東南海・南海地震などの災害が発生した際、社協として円滑な業務ができることを目的に準備を行う。
事業内容	◆発災時に職員が災害時事業継続計画(以下「BCP」)と防災マニュアルに沿った円滑な業務が遂行できるよう研修等による確認を行う。 ◎備蓄物の確認(年1回) ◎避難訓練の実施(年2回) ◎BCPの図上訓練 ◆災害ボランティアコーディネーターの技術向上を図ると共に備品等の整備を進める。 ◎災害ボランティアコーディネーター定期研修会の開催(毎月1回) ◎災害ボランティアセンターマニュアルの随時改正 ◎災害ボランティア備品の整備(追加) ◆災害ボランティアセンターの定期訓練の実施 実績:4月25日、5月23日、6月29日、7月25日、8月22日、 9月26日、10月26日、11月21日、12月7日、 1月23日、2月20日、3月13日(毎月1回実施) 9月7日(講演会に参加)
総評	BCP・防災マニュアルは策定から年数が経過し、現状で活用しているICTの活用が含まれていないなど見直しが必要であったため、図上訓練を行い係別で見直しを行った。そこで、不足しているものの確認をおこない、具体的に対策を考えることができた。 災害ボランティアコーディネーターについては、毎月の研修会を行うことにより、いつ発災するかわからない災害に備えている。また、研修会には御浜町役場健康福祉課と総務課の職員にも参加いただき、連携を図っている。
課題	BCP・防災マニュアルの実情に合わせた運用ができるように、見直す日を決めていく必要がある。
その他 (所感等)	能登半島地震や介護保険の改正によりBCPがより重要視されるようになった。
改善への取組み・方向性	BCP・防災マニュアルの見直しと研修を実施する。
記入者	喜田

事業名	多世代に対応した情報提供の充実
財源元	☒ 委託 ☒ 補助 ☐ 自主財源（ ）
目的	関連機関・団体と連携し、情報の共有化を図りながら住民の抱える問題解決に努めます。
事業内容	◆権利擁護啓発事業の実施 「転ばぬ先の杖！元気なうちから始める相続・遺言の準備」 実施：令和6年8月28日（水）13：30～15：00 場所：町福祉健康センター 参加：39名 ◆社協だよりの発行 実績：広報みはまに折り込んで毎月発行。基本8ページ（5月・7月号のみ12ページ） 内容：表紙・行事予定カレンダー、特集…御浜町のこともっと知りたい！伝えたい！ 事業報告、福祉制度説明、ボランティア関連記事、社協事業案内、寄付、他 広報委員会：発行にあたって広報委員会を設置し、毎月委員会を開催。 ◆ホームページの設置 内容：社協紹介、事業の募集や案内、事業・決算報告、社協だよりの掲載 ブログ及びSNSによる事業報告、ご意見及び相談に関すること ◆子育て支援室公式LINE、Facebookなどのソーシャルネットワーキング（SNS）、 防災無線、地方新聞、ケーブルテレビの活用 ◆ボランティア情報誌「てんとうむし」の発行 実績：ボランティアセンター登録者に発行（年2回） 内容：ボランティア募集、講座・研修会案内及び報告、ボランティア活動報告、 ボランティア活動保険案内他 ◆高齢者向け情報誌「あくしゅ」発行 内容：ボランティアグループ「あくしゅ」の支援を行い、年4回発行。 民生委員から配布していただき、高齢者の安否確認のきっかけづくり 読者数：223名 ◆声の広報配布事業 実績：年間12回 対象者：1名（電子データでの利用） ボランティア：5名
総 評	研修会や広報誌、SNS等色々な機会や媒体を活用し、広く啓発を行うことができた。
課 題	引き続き、幅広い年代の方への情報発信を行っていく必要がある。
その他 （所感等）	LINE、SNS、社協だより等を活用し情報発信を行うことで、イベントの参加につながっていると感じた。
改善への取組 み・方向性	引き続き、SNS等も活用し情報発信を行うとともに、社協だよりについては寄せられた意見や広報に関する研修会等を参考に適宜見直しを図る。
記 入 者	喜田

事業名	分野ごとに基幹的な役割を担える体制の整備による、関係機関との連携強化
財源元	☒ 委託 ☒ 補助 ☐ 自主財源 ()
目的	各支援関係機関との連携を推進することで、住民が抱える課題の解決を図ります。
事業内容	◆地域包括ケア会議等各種会議への参画 実施：11月17日、2月18日 ◆紀南自立支援協議会（各部会）への参画 精神障がい者の地域生活を考える部会：6月7日、10月8日、2月25日 ◆町内グループホーム運営協議会への参画 グループホームみつわ：年6回 (5月27日、7月22日、9月30日、11月25日、1月27日、3月31日) グループホームひぐらし：年6回 (5月15日、7月17日、9月18日、11月20日、1月22日、3月12日)
総評	個別のニーズから地域課題を検討する場へ参加し、社協としてのできることや現在の取り組みについて話すことで、新たな事業への取り組みができた。
課題	担当者や参加委員が変わると活動の方向性が変わっていく可能性があるため、社協としての立ち位置を意識して参加する必要がある。
その他 (所感等)	地域運営推進会議のなかで認知症カフェサテライトの利用に対しての参加者や施設としての意見を聞くことができ、事業に活かすことができた。
改善への取り組み・方向性	各事業所の特色を理解し、連携しやすい環境を作っていく。
記入者	喜田

事業名	地域に寄り添いながら関われる体制の整備
財源元	☒ 委託 ☒ 補助 ☐ 自主財源（ ）
目的	一人ひとりを大切に、本人に寄り添った社会参加・自立に向けた支援を充実します。
事業内容	◆重層的支援体制整備事業 ○参加支援事業（あんしん訪問 同意あり） 相談受付件数：１４５件 プラン作成：新規３件 終結件数：１件 ◆ふれあい型配食サービス 実績：全地区９回 上市木地区(業者のお弁当) 延べ対象者 ６６名 延べボランティア数 ９名 下市木地区(業者のお弁当) 延べ対象者 ５７０名 延べボランティア数１２９名 神木 地区(業者のお弁当) 延べ対象者 ３８２名 延べボランティア数 ７２名 志原 地区(ボランティアが調理) 延べ対象者 ５５８名 延べボランティア数１２９名 阿田和地区(ボランティアが調理) 延べ対象者１，１４６名 延べボランティア数１８６名 尾呂志地区(業者のお弁当) 延べ対象者 ２２５名 延べボランティア数 ９３名 ◆福祉車両貸出事業 対象者：移動の際に車イス及びストレッチャーが必要な方とその家族 料金：運行範囲が御浜町内であれば無料 貸出状況：車イス車両 ３２件 ストレッチャー車両 １件 ◆福祉機器貸出事業 対象者：町内に在住の方で福祉機器が必要な方 利用料金：介護ベッド １,０００円/月 車イス ４００円/月 車イスのみ短期利用は無料 貸出状況：介護ベッド貸出数 ２０台(今年度貸出数５台、返却８台) 車いす貸出数 短期 ２９件 長期 １件（貸出可能台数１３台） ◆ファミリーサポート事業 実績：６８件 ◆一時預かり事業 実績：１４４件 ◆病後児保育 実績：１件 ◆育児用品貸出事業 対象者：町内に居住する社協一般会員世帯で新生児または乳児を養育する保護者、里帰り出産や孫の帰省等により、一時的に３歳以下の子どもに対し育児用品を必要とする世帯（社協一般会員） 貸出状況（長期）：ベビーシート１件 チャイルドシート２件 ベビーカー２件 ベビーベッド３件 ベビーバス３件 ベビーバスチェア１件 （短期）：チャイルドシート１件
総評	地域の方と事業を通じて直接接しながら、ニーズを確認し事業に取り組むことができた。
課題	地域の状況によって活動方法や内容の見直しが必要になってくるため、今までの活動を振り返りながらこれからに向けてどうしていくか丁寧な関わりが必要になってきている。
その他（所感等）	神木地区に続き、阿田和地区においても、見守り活動と地域の活動（散歩）を三重大の協力のもとデータを取り、活動について見える化する事ができ、来年度の活動のきっかけづくりができた。
改善への取り組み・方向性	事業や会議なども含め、地域へのアウトリーチをおこない関わり続けていく。
記入者	喜田

事業名	地域のたまり場やつどえる場所の周知
財源元	☒ 委託 ☒ 補助 ☐ 自主財源（ ）
目的	小地域のたまり場やふれあいサロン等が幅広い世代がつどえる場につながるよう、実情に応じて啓発や支援を行います。
事業内容	◆福祉啓発イベントの開催 ○Go! Go! みいまるボラフェスタの開催 実施：11月10日（土）10:00～13:00 場所：町福祉健康センター 参加：700名（うちボランティア125名） ◆福祉映画上映会の実施 内容：「オケ老人！」 実績：来場者224名 ◆集い活動集の作成 「集いの場コレクション」作成 400部 ◆制服リユースプロジェクト 集まった数：セーラー服上下 10着（+2）、学生服上下 5着（+2） 譲られていった数：セーラー服上下3着、学生服上下4着、学生服ズボン4着 ◆社協だよりの発行 ※詳細はP.9 ◆ボランティア情報誌「てんとうむし」の発行 ※詳細はP.9 ◆ホームページの設置 ◆子育て支援室公式LINE、Facebookなどのソーシャルネットワーキング（SNS）、防災無線、地方新聞、ケーブルテレビの活用
総評	LINE、SNS、社協だより、イベント等を通じて情報発信を行うことで、行事やイベントの参加につながっている。
課題	必要な情報が必要な人に必要な時に届くよう、内容や方法を整理して発信していく必要がある。
その他（所感等）	社協だより等広報紙では、情報の提供のみに偏らないように注意するとともに、どの世代にも伝わるような書き方を心がけたい。SNSの活用の検討を計画的に行い活用していきたい。
改善への取り組み・方向性	イベントは、直接会うことができなくても関わり続けるアウトリーチの一つの手法であるため、イベントの開催にあたり、届いてほしいメッセージを発信していく。
記入者	喜田

事業名	幅広い世代の町民が交流できる、つどいやすい環境の提供
財源元	☒ 委託 ☒ 補助 ☐ 自主財源（ ）
目的	生活支援コーディネーターや相談支援包括化推進員、ボランティアコーディネーターなどを配置し、一人ひとりの要望にあった居場所づくり支援等を通じて、町民の仲間づくりやグループ活動を支援していきます。
事業内容	◆生活支援コーディネーターや相談支援包括化推進員、ボランティアコーディネーターの配置 ◆コミュニティカフェ（Café 1 go 1 笑（イチゴイチエ））阿田和の旧喫茶若松にて実施 内容：毎週火曜日 10：00～15：30（ランチタイム11：00～13：00） 1）毎月1回介護者家族のしゃべり場 2）精神障がい者の居場所作り（毎月第2木曜日 13：00～15：00） 実績：62日 利用：延べ人数801名（内訳）午前466名 午後335名（精神カフェ利用含む） 協力事業所：（有）あおぞら・NPO法人つどい （有）であい・（株）ひまわり介護サービス ◆コミュニティカフェ（サテライト・のぶゑさん家）新規 古民家を借りて実施 内容：毎週木曜日 午前の部10：00～12：00 午後の部13：00～15：00 1）午前の部は、地域の方のたまり場として（オレンジサロン）モデル的に実施中 参加支援の場としても検討中 2）午後の部は、長期入所となる施設を対象に1日1施設（貸し切り）にて実施 実績：50日 利用：延べ人数835名 （内訳）午前354名 午後481名 利用施設：養護老人ホーム松濤園 ・特別養護老人ホームエイジハウス（関連施設含む） ◆福祉コミュニティー推進事業（地区助成事業各5万円助成） 実績：3件 （尾呂志地区育成会、志原地区育成会、神木地区育成会） 内容：各地域において地域の方同士の交流の機会として夕涼み会や夏祭りを開催 尾呂志7/6（土）、志原7/23（火）・7/27（土）、神木8/14（水） ◆地域福祉活動助成事業（小地域助成 上限3万円助成） 実績：1件 （北畑北自治会） 内容：秋季運動会 10/13（日）
総評	生活支援コーディネーターをはじめ、それぞれのワーカーが個別のニーズから普遍化し、既存の事業を活かしながら、新たな取り組みを開始することができた。
課題	コミュニティカフェにおいては、参加者の幅が広がってきているためニーズと目的を整理して、取り組んでいく必要がある。
その他（所感等）	認知症カフェサテライトでは、コロナで外出が難しくなった入所施設利用者に対し、一日一組限定の貸し切りにすることにより安心して利用できると喜びの声聞くことができた。
改善への取り組み・方向性	既存の事業を活かし、必要に応じて枠を広げるなど地域のニーズに敏感になりながら取り組んでいく。
記入者	喜田

事業名	自分に合った場所や気の合う仲間がつどえる居場所づくり
財源元	☒ 委託 ☒ 補助 ☐ 自主財源（ ）
目的	福祉問題を抱えて孤立してしまいがちな町民が交流できる機会をつくります。
事業内容	◆地域活動支援センター事業（にこにこデイサービス） 実施：毎週水曜日 内容：午前 朝の会や園芸活動（野菜や花の栽培、収穫等）、創作活動、お口の体操等 午後 テレビ体操やレクリエーション、おやつ、棒体操等のサービス 参加：延べ444名 ◆フレンドの会 実績：年間7回 参加：延べ70名 内容：お茶会、SSピンポン、買い物、己書体験、旅行、お好み焼き ◆紀南地域生活交流会 実績：年間4回 参加：延べ43名 内容：バーベキュー、ディスコン、秋の運動会、書初め
総評	今まで関わってきていない医療的ケア児等の居場所づくりなど、既存の施設や団体と連携を取り新たなニーズに対して受け入れることができた。
課題	現在参加している方の高齢化により、活動内容に工夫が必要になっている。現在の居場所に関しては、新たな参加があった場合の対応を検討する必要がある。
その他（所感等）	引きこもりの方の居場所などは、どのような形がよいか実態調査の結果とニーズを確認しながら検討していく必要がある。
改善への取り組み・方向性	目的を確認し、現在の活動を継続していく。
記入者	喜田

事業名	趣味活動や運動教室など、同じ目的を持った人同士が活動できる機会の確保
財源元	☒ 委託 ☒ 補助 ☐ 自主財源（ ）
目的	趣味活動など、それぞれに興味を感じられるものを切り口とした講座などを通じて、つどえる場所づくりを支援していきます。また、同じ境遇や問題意識を持つ町民のグループ活動を支援します。
事業内容	◆在宅介護者に対する支援事業 実績：年間6回 参加：延べ18名 ◆通所型サービスB（住民主体の通所型サービス）への支援 ◎「まんまる畑」 実施：毎週火、金 8時30分～10時30分 場所：御浜町福祉健康センター横 内容：野菜等を栽培、収穫した一部は「ほほえみかん」で販売 事業を展開において、世話人、JA等のコーディネートの実施 実績：年間86回 参加：延493名 ◎「あそこってどこよ」への支援 定年退職後の地域貢献や生きがいを求める方々によって結成されたボランティアグループ「花より団子」が、民家を活用したたまり場「なないろサロン」を開設。高齢者の生きがいづくりや見守り活動を目的にしたこの取り組みの継続支援を行った。 実施：毎週水 10時00分～15時00分 場所：下市木民家 内容：民家を活用しおしゃべりをしたり、弁当などをとっての食事、参加者と世話人との交流を行い、互いの見守り活動ができるような取り組みの実施 実績：年間50回 参加：延べ531名 ◆小地域たまり場づくりコーディネート 継続支援の実施
総評	趣味や興味の感じられるものをきっかけに集う場所づくりを支援することで、昨年度新しくできた集いの場が継続することができた。参加する方の構成は、それぞれの場によって違うため、その集いの場に合った支援をすることで、新規の居場所の創設や既存の集いの場の継続につながっている。
課題	世話人が中心となる活動のため、参加が難しくなってきている方に対し、コーディネーターが関わることで、その方に合った支援方法をみつけたり、次の活動場所へつないでいくことが必要である。
その他（所感等）	在宅介護者に対する支援事業をカフェ1go1笑を活用し定期開催とし、年に1回リフレッシュ事業として取り組むことで、新たな参加があった。
改善への取り組み・方向性	集いの場は参加者の身体的な変化や周囲の変化によって影響をうけるため、集いの終了も含め変化に対応する必要がある。活動の始まり方と同様に、活動の終わり方も意識して取り組んでいく。
記入者	喜田

事業名	誰もが生きがい活動や交流活動に気軽に参加できる場づくり
財源元	☒ 委託 ☒ 補助 ☐ 自主財源（ ）
目的	子どもから高齢者まで幅広い年齢層や障がい者などが、生きがい活動や交流活動に気軽に参加できるような場づくりを進めます。
事業内容	◆ふれあいサロン 実施：町内10箇所毎月1回、約2時間程度の開催（尾呂志・神木地区は月2回） ・神木 ・上市木 ・下市木 ・引作 ・柿原 ・萩内団地 ・尾呂志 ・志原 ・山地 ・上地 ・阿田和 参加：年間延べ 882名 ◆訪問型ふれあいサロン実績 訪問回数：延べ 118回 令和6年3月末 対象者 9名 ◆ちびっこランド（※子育て支援室出張ひろばも兼ねて開催） ○ちびっこランドしはら（参加者中心でプログラムを実施） 実施：毎月第3木曜日 10時00分～11時30分 場所：志原公民館 ほか 参加：延べ54組（※8月は休み、12月、1月はだるまランドと合同開催） ○だるまランド（参加者代表中心でプログラムを実施） 実施：毎月第1木曜日 10時00分～11時30分 場所：下市木公民館 ほか 参加：延べ110組 ◆まちかどチェアエクササイズ ○志原地区 実績：延べ738名 開催：44回 ○阿田和地区 実績：延べ779名 開催：44回 ○市木地区 実績：延べ502名 開催：44回 ◆まちかどエクササイズ神木 実績：延べ216名 開催：36回 ◆敬老会 実施： 10月19日（土） 13時00分～15時00分 参加： 275名
総 評	ボランティアや関係機関と連携をとり、特色に応じたコーディネートをすることで、特定の方に限定せず、広く参加者を受け入れるオープン的な場所として、機能している。
課 題	参加者の状況が変化に合わせて、参加者とともに居場所の形や活動内容を調整し、継続できるようコーディネーターとしての役割が重要である。
その他 （所感等）	特になし
改善への取組み・方向性	参加者が増えないことや次の担い手を心配する声も聞こえてくるが、今までも状況に合わせて変化し今の活動があることを参加者で確認し、変化も見据えながらも今の活動に注目し進めていけるよう支援していく。
記 入 者	喜田

事業名	災害時にも対応可能な見守り体制づくりの促進
財源元	☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 自主財源（ ）
目的	日頃から見守り活動などにより地域でのつながりを深め、防犯や防災にもつながるよう、地域力の強化を図っていきます。
事業内容	◆高齢者見守り活動の再構築 実績：126世帯、ボランティア数：19名（令和7年3月31日現在） 神木地区、阿田和地区において「散歩de見守り」活動モデル事業を実施 神木地区：7月4日 参加 8名 志原地区：7月4日 参加 8名 市木地区：7月4日 参加 11名 尾呂志地区：7月4日 参加 13名 阿田和地区：7月3日・3月6日 参加 18名・19名 ◎研修会 「転ばぬ先の杖！元気なうちから始める相続・遺言の準備」 実施：8月28日（水）13：30～15：00 場所：町福祉健康センター 参加：39名 ◆東紀州ブロック社協災害時広域連携協議会への参画 東紀州ブロック：6月26日、9月2日 ◆災害ボランティアセンターの定期訓練の実施 実績：4月25日、5月23日、6月29日、7月25日、8月22日、 9月26日、10月26日、11月21日、12月7日、 1月23日、2月20日、3月13日（毎月1回実施） 9月7日（講演会に参加）
総評	研修会も含め地域の方と共に継続的に活動することができた。
課題	非常時のために何かするのではなく、平常時からつながりを作り、継続的に取り組み続けることが重要である。
その他（所感等）	東紀州ブロック社協災害時広域連携会議では、今年度は紀宝町が幹事社協であり、継続的な意見交換をおこなった。しかし、計画していた紀宝町の災害ボランティアセンターの訓練に社協職員として応援に入る訓練は、急遽受け入れが難しいということになり、取り組みはできなかった。
改善への取り組み・方向性	地域課題に取り組む際は、広く全般に取り組むだけではなく、現状に即した重要なポイントを考え、さらに能登半島の地震や過去の災害など非常時の中で学んだ経験などを活かし、取り組んでいく。
記入者	喜田

事業名	地域ニーズや個別ニーズに合わせて活動が行えるための支援体制の整備
財源元	☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 自主財源（ ）
目的	さまざまな手段や機会を活用し、地域のボランティアニーズを把握します。社会情勢に合わせて、各種ボランティア講座や講習会の開催を定期的に行います。
事業内容	◆よりみち広場 実施：毎週火・木曜日の13時から17時まで一般開放 ボランティアグループ「和」に開設を依頼 （7月26日～8月31日・12月20日～1月13日の期間は休み） 参加：1, 166名（1日の利用者数 約12名程度） 開催：年間83日 ◆その他活動 ふれあいサロン「ひよこの会」会場として活用 神木地区のストレッチ同好会が発足しその会場として活用 ひきこもりの家族の会の会場として活用 神木地区地域座談会 ◆「和」主催の活動・講座など ・エコクラフト教室（1回） ・松阪市民生委員児童委員視察受入れ ◆子育て支援室 おひさま ・子育て親子の交流の場の提供と交流の促進、子育て等に関する相談、援助 （あそび場の開設、育児用品リユースや季節の行事等） 来室者：4月：248名、5月：288名、6月：324名、7月：378名、 8月：172名、9月：311名、10月：417名、11月：310名、 12月：276名、1月：266名、2月：326名、3月：284名 ・ファミリーサポート事業 実績：68件 ファミサポだよりの発行3回/年、サポート会員養成講習会の実施 ・一時預かり事業 実績：144件 ・病後児保育事業 実績：1件 会員登録者数（子どもの数）：14名 今年度、新規登録5名
総評	神木地区において、「神木ほのぼの館」を活用し、地域のニーズに合わせてボランティアや地域の方と共に活動することができ、活動の拠点として機能している。
課題	担い手養成について、分野を超えて活動できる、新しい形での開催や取り組みを探る。
その他 （所感等）	子育て支援では、子育て支援室おひさまを活動拠点として取り組むことができ、件数も大幅に増えている。
改善への取組み・方向性	拠点があることで、活動の幅が広がるため、既存の施設の活用方法を検討し、新たな活動の拠点となりえないか意識して取り組んでいく。
記入者	喜田

事業名	多世代による活動の担い手の育成
財源元	☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 自主財源（ ）
目的	居場所づくりとリンクした世話人のマッチングを通じての生きがい活動支援を行い、学校と地域の連携を推進し、児童生徒が地域の担い手として活躍できる機会の充実を検討します。また、ボランティアの育成やボランティアコーディネートに加え、市民活動の支援を行える体制の整備を進めます。
事業内容	◆ささえあいサービス ①ご近所活動・お出かけ付き添いサービス 内容：買い物、ゴミ出し、墓花替え、病院の付き添いなど日常生活のちょっとした困りごとに関して、住民相互が会員となり有償でサービスの提供を行う。 依頼件数：130件 ②世話人活動 実績：カフェ世話人(サテライト含)：189件 畑の世話人：114件 運転手：134件 ◎会員数：51名（利用会員26名、提供会員25名） ◆子どもボランティアグループプチトマト 登録人数：24名（阿田和小：5名、御浜小：18名、尾呂志学園小：1） 実績：プチトマト会議（3回） 手話ダンス練習会 7月29日、8月6日、8月28日、10月26日 街頭募金活動 7月31日 地域の方との交流 みいまるボラフェスタ 11月10日 ふれあいサロン 8月1日、8月7日、8月23日 歳末事業に参加 12月26日 ふれあい配食サービスにつける手紙の作成 10月～3月 ◆歳末事業 実施：12月26日 参加：46名(フレンドの会、南紀さんさんワーク、プチトマト、サロンひよこの会、ボランティア) 内容：忘年会 ◆学生ボランティア講座 実績：3月22日 参加：10名 内容：2ブロックに分け、折り紙・バルーンアートづくり、アクションを体験 協力者：木本高校JRC部6名・顧問、ボランティア（藤健太郎氏）
総 評	有償ボランティアの仕組みを活用し、生きがい活動の継続的支援ができた。また、ボランティアグループプチトマトの活動などを通して、子ども達が活躍できる機会となった。
課 題	ニーズを細分化し、具体的な内容にして依頼するなどの工夫を行い、また活動を個別からグループでの対応を可能にするなどの検討を行い、新たな担い手の確保につなげていく必要がある。
その他 (所感等)	プチトマトは、参加が毎年増えてきており、特に低学年の参加が多くニーズが高いと思われる。
改善への取組み・方向性	ニーズに合わせて、コーディネートを行なう中で、ボランティアの育成につなげていく。また、子ども達のボランティアグループプチトマトの活動については、毎年メンバーが変わるため方向性を持ちながらも子ども達の学年構成に合わせて対応していく。
記 入 者	喜田

事業名	居宅介護支援事業(御浜町ケアサポートセンター)					
収入の状況	当初予算額	18,717,000	収入実績額	18,805,427	達成率	100.5%
目的	事業対象者や要支援者及び要介護者が心身の状況や置かれている環境等に応じて本人や家族の意向を基に、サービスを適切に利用できるよう、サービスの種類、内容等の計画を作成するとともにサービスの提供が確保されるよう指定居宅サービス事業者、介護保険施設等との連絡調整、その他の便宜を図る。					
事業内容	要介護状態となった場合においても、そのご利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営む事ができるよう配慮し、ご利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、ご利用者の選択に基づき、適切な保健医療サービス及び福祉サービスが多様な事業者から総合的かつ効率的に提供していく。					
	【年間延べケアプラン数】					
	事業対象者	要支援者	要介護者	計		
	22	214	1,117	1,353		
総評	◆R6年度は、職員体制3名で月平均要介護93名、事業対象者及び要支援20名の合計113名の方の支援をさせて頂いた。 ◆R6年4月～町内に訪問診療所が開設されたことにより選択肢の幅が広がった。 ◆町内の通所リハビリ事業所の変化で(一日デイ⇒半日デイに変更になった)利用者さんへの声の届け方や対応に大変だった部分があった、またケアマネ自身の仕事を見つめ直す機会にもなった。					
課題	◆訪問介護のニーズは多いですが、訪問介護を取り巻く状況が年々厳しくなっている為、代替えサービスの利用など支援に工夫が必要。 ◆R6年度の新規利用者数は42名、相談のみで終了した方は9名でした。利用者数は前年度と大きく変わりはないが、新規依頼が重なった場合等で受け入れできなかった事もあり、今後体制を整えていく必要がある。					
その他(所感等)	特になし					
改善への取り組み・方向性	◆近隣との社協との情報交換を行い、紀南地域に適したサービス提供のあり方について取り組んでいく。 ◆ICTを活用し、業務の効率化に取り組んでいく。					
記入者	植村					

事業名	訪問介護事業(御浜町ヘルパーステーション)					
収入の状況	当初予算額	18,759,000	収入実績額	18,494,450	達成率	98.6%
目的	事業対象者や要支援者及び要介護者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう支援する。					
事業内容	ホームヘルパーが事業対象者や要支援及び要介護状態の高齢者の居宅を訪問し、入浴、排泄、食事介助等の身体介護、生活全般(掃除、洗濯、買物、調理等)に亘る生活支援を行う。 その他、通院等のための乗車又は降車の介助を行う。					
	【年間延べ利用者数】					
	事業対象者	要支援者	要介護者 (乗降のみ除く)	乗降介助のみ	計	
	145	693	4,332	173	5,343	
	[年間キャンセル数： 456 件 利用率： 92.1%]					
総 評	◆今年度も毎月の目標を上回る事が多く、前年度より増加した。 ◆今年度はヘルパーが1名増え、新規の訪問や追加訪問希望の依頼に対応でき、収入増につながる事ができた。 ◆他職種機関との連携を共有できるMCSを活用し、医療や介護の各専門職との情報共有がこまめに行う事ができた。 ◆訪問調整をケアマネジャーやヘルパーと綿密に行うことで、訪問依頼にも柔軟な対応が取れた。					
課 題	◆夕方や曜日(特に土日)指定の訪問は、受け入れ困難な状態は続いている。 ◆年々、気温が上昇している夏場の訪問では、ヘルパー自身の体調管理や環境をしっかりと考慮した体制が必要となっている。 ◆タブレットの活用慣れ、今後は業務の効率化・簡素化を図れるよう取り組んでいく。					
その他 (所感等)	特になし					
改善への取組み・方向性	◆ご利用者の思いや、ヘルパーの心身の負担を軽減できるよう、話しやすい関係・環境作りに取り組んでいく。 ◆職員のスキルアップの為、定例会での研修を計画的に行い、積極的に様々な研修に参加する。					
記 入 者	桐本					

事業名	通所介護事業(御浜町デイサービスセンター)					
収入の状況	当初予算額	73,997,000	収入実績額	58,773,540	達成率	79.4%
目的	事業対象者や要支援者及び要介護者が居宅において、可能な限り現在の日常生活を維持・向上していけるように、機能訓練や認知症予防等、個別のニーズに合わせてサービス提供することで、ご利用者の社会的孤立の解消や家族の介護負担の軽減を目的とする。					
事業内容	ご利用者の身体機能の維持向上や楽しみ、生きがいにつながる様に、送迎、昼食、入浴、機能訓練、レクリエーション等のサービスを提供する。また、本人や家族様の介護に関する相談や助言を行うことで、在宅生活の延長であるデイサービスを身近に感じていただく。					
	【年間延べ利用者数】					
	事業対象者	要支援者	要介護者	計		
	86	101	5,300	5,487		
	[年間キャンセル数： 648 件 利用率： 89.4%]					
総 評	◆家庭や本人の様々な事情により通常の時間帯での利用が難しいご利用者に対し、時間短縮での利用や振り替え利用について提案し柔軟に対応した。 ◆7月末にコロナが流行し、ご利用者12名と職員5名が感染した。ご利用者に連絡したところ大事をとって欠席される方が多かった。 ◆令和7年1月に入り、体調を崩され入院されるご利用者が目立った。在宅生活が困難になり、施設への入所や死亡するご利用者が多くいた。 ◆7月末のコロナ流行以降1日平均利用者数が大幅に減少した。毎月新規利用者の依頼もあったが中止となるご利用者が多くいた。1日平均利用者も目標の28名に対し21.3名と目標を大きく下回った。					
課 題	◆認知症状から理解力が低下し、施設内の徘徊や予測できない行動をするご利用者が増加しているため危険リスクが高くなっている。 ◆送迎時の車両の接触が多くなっており、危険個所について職員への周知方法について検討する必要がある。 ◆御浜町社協のデイの特色を出していきたい。					
その他 (所感等)						
改善への取組み・方向性	◆職員間での情報共有のため、職員ミーティングは継続して実施。検討事項や問題が発生した場合は迅速な解決に向けて話し合いを設け質の向上につなげる。 ◆ご利用者一人ひとり、個別の対応ができるよう日々取り組む。 ◆職員の業務内容を明確にし、業務の効率化を進める。 ◆係長を2名体制とし、ご利用者への対応力を強化。ニーズを丁寧に聞き取り、より具体的な取り組みにつなげることで、ケアの質のさらなる向上を目指す。					
記 入 者	西口					

事業名	訪問入浴事業(御浜町訪問入浴サービス)					
収入の状況	当初予算額	4,038,000	収入実績額	4,590,500	達成率	113.7%
目的	訪問入浴介護事業は、要介護者等がその心身の状況や置かれている環境に応じて、本人や家族の意向をもとに適正な訪問入浴介護を提供することを目的とする。					
事業内容	自宅まで訪問入浴車で訪問し、居室で入浴していただくサービス。2分割式の浴槽を組み立て、ご利用者ご本人の身体状況に応じ入浴ボードまたは入浴担架を使用し入浴を行う。利用時の状態により清拭での対応も行う。できるだけベッドの近くで入浴していただき、ベッドと浴槽間の移動は必ず介護職員が介助して行う。					
	【年間延べ利用者数】					
	要支援者 1	要支援者 2	要介護者 1	要介護者 2	計	
	0	0	0	103	332	
	要介護者 3	要介護者 4	要介護者 5			
	124	7	98			
[年間キャンセル数： 24 件 利用率： 93.3%]						
総 評	◆今年度も前年度に引き続き、要支援者の利用はなし。 ◆昨年度から利用者数は、増加したが件数は変わらない。理由としては、新規利用者がターミナル期であり短期利用となる事が多かったため。 ◆今年度の新規のご依頼は6名(ターミナル期4名)。 ◆今年度の中止者6名。1名が入院中。 ◆訪問看護、訪問診療など、医療サービスを利用されている方が多く、病状や、傷の処置などを含め、医療との連携が重要になっている。 ◆常に安全に気を配り、事故防止に努めた。					
課 題	◆終末期の新規の方が多く継続した件数の増加には繋がらない。					
その他(所感等)	地域として在宅看取りの体制が充実してきており、終末期のご利用者など必要性は高まっているが、訪問入浴事業としての経営の側面から見ると難しい。					
改善への取組み・方向性	◆訪問入浴事業は、訪問件数が引き続き少ない状況が続いており、収益の減少や職員体制の維持などを総合的に考慮した結果、サービスの継続が困難な状況となった。 ◆管内には同様のサービスを提供する他事業所も存在することから、以前より事業の廃止について検討を重ねてきたが、令和7年8月をもって廃止することとなった。 ◆事業の廃止に伴い、地域住民の入浴支援に対するニーズを再度調査し、今後の支援の在り方について検討を進める。 ◆訪問入浴に代わる新たなサービスの可能性や、他機関との連携による支援の方法なども視野に入れ、地域の実情に即した対応を模索していく。					
記入者	仲					

事業名	特定相談支援事業・障害児相談支援事業(御浜町指定障害者相談支援事業所)				
収入の状況	当初予算額	781,000	収入実績額	871,190	達成率 111.5%
目的	障がい者(児)がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるように支援することを目的として、障がい福祉サービス等を提供する。				
事業内容	障がい者(児)がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営む事ができるよう配慮し、その方の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、本人又は障がい児の保護者の選択に基づき、適切な障がい福祉サービス等が、多様な事業者から総合的かつ効率的に提供されるよう支援する。				
	【計画相談支援実数】				
	障がい児	区分1	区分2	区分3	計
	1	3	0	2	22
	区分4・5	区分6	区分なし	暫定	
	5	1	0	10	
総評	◆計画相談員1名兼務で行っており、支援人数は例年とほぼ同じような人数で推移している。 ◆高齢者と比べると訪問回数が少なく、ご利用者及びご家族との関係性を作っていく事に難しさがある。 ◆障害分野だけでなく今後は高齢者分野等、複合的な関わりが必要になる。				
課題	◆利用者数が増えてくると、アセスメントやモニタリングに十分な時間を取って関わっていく事が難しい。 ◆計画相談を行っている事業所が少ない為、新規受け入れ等の業務負担が増える。 ◆地域に障がい者サービスの社会資源が少なく、個々の障がいにあったサービスを提供するのが困難な場合もある。社会資源が少ない中、地域全体としての取り組みが必要。				
その他(所感等)	特になし				
改善への取り組み・方向性	◆地域として不足しているサービスや資源等もある為、御浜町の障がい者福祉サービスの充実と向上が図れるよう、行政やサービス事業者と連携し取り組んでいく。 ◆相談内容の多様化が考えられる為、柔軟な対応を行う。				
記入者	植村				

事業名	障がい者への訪問サービス事業(御浜町ヘルパーステーション)					
収入の状況	当初予算額	325,000	収入実績額	290,910	達成率	89.5%
目的	障害者総合支援法の趣旨に基づき、利用者の意思と人格を尊重するとともに、常に利用者の立場にたち、居宅において日常生活が営めるよう必要なサービスを提供し生活の質の向上等を図ることを目的とする。 (居宅介護事業・重度訪問介護事業(自立支援給付)、移動支援事業(地域生活支援事業))					
事業内容	移動の介助、生活全般(掃除、洗濯、買い物、調理等)に亘る援助を行い、生活等に関する相談及び助言を行う。					
	【年間延べ利用者数】					
	種 別	実利用者数		延べ利用回数		
	自立支援給付	4		144		
	地域生活支援給付	0		0		
総 評	◆自立支援給付対象のご利用者は今年度も4名で続いていたが、1名入所され、3名のご利用者に支援行えた。 ◆前年度と同じ家事支援を行うにあたり、若干、ご利用者自身が家事を行える 一面も見え、支援の必要性も感じられた。					
課 題	◆在宅生活の中で、ご利用者の自立に向けた支援の対応を今後も各関係機関と情報共有しながら、徐々に必要な支援の拡大につなげていく。 ◆ご利用者の精神状態をしっかりと把握し、限られた関わりのあるヘルパーで共有し、負担を軽減していく。					
その他 (所感等)	特になし					
改善への取組み・方向性	◆各関係機関と情報を共有しながら、ご利用者の心身の状態をしっかりと把握し、良い関係を保って支援出来るよう心掛けていく。					
記 入 者	桐本					

事業名	福祉有償運送サービス事業					
収入の状況	当初予算額	96,000	収入実績額	91,650	達成率	95.5%
目的	要介護者や障がいのある方など、公共交通機関を使用して移動することが困難な方を対象に、通院、公的機関への用務等を目的に行う有償の送迎サービス。(道路運送法第79条第3号)					
事業内容	◆車輛・・・福祉車輛（軽４台）・一般車輛（軽２台） ◆運転者・・・６名登録 ◆運賃・・・《介護保険連動型》片道2kmまで200円、 その後2km増す毎に50円加算 《介護保険外対応型》片道2kmまで300円、 その後1km増す毎に100円加算 ◆目的・・・通院、公的機関への用務など					
	【登録会員数】					
	要支援者、その他	要介護者	身体障がい者	精神障がい者	知的障がい者	
	3	31	10	1	6	
	計				51	
総評	◆今年度は、定期受診以外の通院の方も多く、毎月6名～15名と変動が大きかった。 ◆限られた人数の中でも、出来る限り対応を行うことができた。 ◆迎えの時間が分かりにくい事もあり、他の業務との調整が厳しい時もあった。					
課題	◆運転手の確保が時間帯によっては厳しく、車イス車両の方や体の大きな方への対応が困難な場合がある。 ◆他の業務との関係で、柔軟な対応をとることが難しい。					
その他(所感等)	特になし					
改善への取り組み・方向性	◆運転手の稼働時間を確保し、対応しやすい体制をとり、車イス車両を使用する方等への対応が出来るよう整えていく。 ◆ゆとりある運転を常に心掛け、安心・安全に徹底した支援を提供していく。					
記入者	桐本					

事業名	福祉健康センター指定管理事業
財源元	☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 自主財源 ()
目的	御浜町福祉健康センター条例に定められた業務を実施することを基本として、適切に施設の管理運営業務を実施し、もって住民福祉の一層の増進を図る。
事業内容	①施設の適切な維持及び管理 ○日常的な保守点検 ○修繕・交換の実施 ・蛍光灯の交換 ・空調機器の修繕 ・電柱の防鳥対策 ・非常放送設備の交換 ・水漏れの工事 ・消防設備の修繕 ・浴室設備の交換 ・トイレ内自動手洗い水栓の取替 ・防火戸自動開閉装置の修理 ・高圧受変電設備の取替え工事 ・電気用マンホールパッキンの交換 ②緊急事態発生時の対応策・その他安全対策 ○年2回の避難訓練の実施 ○植栽の管理 ③点検業務等の第三者委託 ○第三者への業務の委託契約 ・電気設備保安全管理業務 ・フロリダ簡易点検業務 ・空調設備保守点検業務 ・地下タンク気密点検業務 ・自動ドア保守点検業務 ・消防設備保守点検業務 ・日常清掃業務 ・ボイラー保守点検業務 ・ヘルストロン保守点検業務 ・浄化槽保守点検業務
総評	修繕等適切な管理を行えている。 高圧受変電設備の工事が終了。
課題	年数の経過により建物や備品の修繕が必要な箇所が増えてきている。雨漏りが、顕著となり大規模修繕を必要とする箇所も多く、行政との調整が必要な内容が増えている。 光熱費が上昇傾向にある。
その他 (所感等)	物価等の高騰により、修繕や委託費が増加傾向にあり、電力会社の変更等、費用を抑える方法を検討していく必要がある。 行政との契約期間(5年)が今年度までとなっており、受託金の金額が変更されない契約ではあるが、協議をしていきたい。
改善への取組み・方向性	
記入者	喜田

